

■時枝誠記 国語学者。独自の言語観で新説を次々と発表、〈敗戦〉直後の国語学界に大きな影響与えるも、批判で退場。
ときえだもとき
17/国産化・1900＝ 東京神田で横浜正金銀行行員の長男に生まれる。

日露戦争終・1905＝ 5歳：

韓国反日暴動1907＝ 7歳：私立暁星小学校に入学、

伊藤博文暗殺1909＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝12歳：
大正政変・・1913＝13歳： 暁星中学校に進む。外国語はフランス語で、1年下の渡辺一夫とはその後長く親交、
インドやアメリカに長く滞在して国語問題に関心を持ち、また読書家でもあった父の影響を受けて、国語への関心を抱くようになり、上田万年の文を読んで決意を固めるが、

本格政党内閣1918＝18歳： 帰国した父から学者となることに反対され、第一高等学校の受験にも失敗、
ベルサイユ条約・1919＝19歳： 第六高等学校文科に入学、

原敬首相暗殺1921＝21歳：
水平社結成・1922＝22歳： 東京大学文学部国文科に入学して、上田万年教授・橋本進吉助手から直接指導を受け、

治安維持法・1925＝25歳： 論文「日本ニ於ル言語観念ノ発達及言語研究の目的ト其ノ方法」で卒業、創立間もない第二東京市立中学校教諭となり、生徒に教えて国語への理解が急速に深まり、以後、次々と論文を発表。校長の娘と出会い、
金融恐慌・・1927＝27歳： 創立間もない京城帝国大学に招聘されて助教授に就任するとともに、命を受けて、欧米各国へ留学、

世界恐慌・・1929＝29歳： 帰国・帰任するとともに、結婚。

満州事変・・1931＝31歳：

国際連盟脱退1933＝33歳： 京城帝国大学教授に昇格後、父が死去、妻の病状悪化などで、

芥川直木賞始1935＝35歳： 自らも神経衰弱となるが、剣道部の対校戦に同行して心機一転を図り、
二二六事件・1936＝36歳：
日中戦争始・1937＝37歳： *背水の陣で{文学}に「文の解釈上より見た助詞助動詞」を発表したのに続き、それまでの研究をまとめた「心的過程としての言語本質観」を発表して、独自の学問体系を構築するに至る。
健保+総動員 1938＝38歳： 朝鮮総督府が企図した「皇国臣民誓約」の“奉納塔”の建設への反対運動に専念、妻が神経性胃潰瘍となり、
第二次大戦始1939＝39歳： 安倍能成学部長に退職希望を申し出るも叶わず、不満を回避すべく研究に没頭、
大政翼賛会・1940＝40歳： 「国語学史」、
日米開戦・・1941＝41歳： 「国語学言論」の発表となった。
この間、朝鮮総督府学務局刊行の「中等国文法」も完成させるうち、
創価学会検挙1943＝43歳： *退官する橋本進吉に抜擢され、後任の東京帝国大学教授に就任するとともに、文学博士となる。
年金+総武装 1944＝44歳： 長女誕生。_ {三省堂}から依頼の「国語研究法」を脱稿するも、戦局進展で刊行中止となったが、
敗戦・・・・1945＝45歳： 橋本進吉死去、大空襲で自宅も被災して軽井沢の別荘に移動後、〈敗戦〉となり、以後研究室に寝泊り、
新憲法公布・1946＝46歳： 国語審議会委員に就任すると、現代かなづかい案を批判、
新憲法施行・1947＝47歳： 「国語研究法」刊行。
極東裁判判決・1948＝48歳： 次女誕生。国立国語研究所評議員。
三大事件・・1949＝49歳： 軽井沢を引揚げて、東京下北沢に新居を構え、以後、様々なかたちで多数の大学の講師をつとめながら、
朝鮮戦争始・1950＝50歳： 「日本文法・口語編」「古典解釈のための日本文法」、
独立回復・・1951＝51歳：
テレビ放送始・1953＝53歳： 「古典の解釈文法」、
自衛隊発足・1954＝54歳： 「日本文法・文語編」、
55年体制始・1955＝55歳： 「国語学原論続編」、
国連加盟・・1956＝56歳： 「現代の国語学」と次々刊行して、
なべ底不況・1957＝57歳： *「国語研究法」を改題補訂した「国語学への道」へ至る。この頃から、学説を批判されるようになり、

安保闘争・・1960＝60歳： 「文章研究序説」、
タイタイ病始・1961＝61歳： 定年退官となり、早稲田大学教授に就任。「国語問題と国語教育」、
全国総合計画1962＝62歳： 国語審議会委員を辞退、
TV宇宙中継始1963＝63歳：
東京リビック 1964＝64歳： 胃癌に犯され、

いざなぎ景気1966＝66歳： 紫綬褒章受賞した後、
美濃部都知事1967＝67歳： 没した。